

山口県における医療機関および食中毒事例由来 *Salmonella* の血清型 ならびに生化学的性状とフェージ型の変化

富永 潔, 工藤恵美, 富田正章, 松村健道, 矢端順子

病原微生物検出情報, 26, 93~94, 2005

平成14~16年度に県内の医療機関および食中毒事例から分離された265株の *Salmonella* の血清型を調べるとともに, Enteritidis について, 重要な生化学的性状であるリシン脱炭酸能 (LDC) の保有ならびにフェージ型 (PT) の変化を調べた。

血清型はいずれの年度も Enteritidis が圧倒的に優勢であり変化は認められなかったことから, 全国的傾向と同様, *Salmonella* 感染症の最優勢血清型と考えられた。

しかし, Enteritidis の LDC については, 平成14年度はわずか16.4~26.7%であった陰性株が, 16年度には82.6~100%と急激に増加し, 他県では認められない傾向であ

った。陰性株においてもLDC遺伝子 *cad A* は保有されていることから, その他のいくつかのLDC発現関連遺伝子の変異, もしくは脱落が推察された。

一方, PTについては, 14年度まで最優勢であったPT4が平成16年度には分離されなくなり, 代わって平成15年度に初めて確認されたPT14bが, 15年度に26.7%, 16年度は100%と, PT4に代わって最優勢となった。これまで分離されているPT14bはすべてLDC陰性株であり, これまで県内になかった新しいEnteritidisのクローンの侵入が示唆された。